

令和7年6月11日

新聞記事に対する協会の声明文

このたびの毎日新聞の一連の報道により、関係者の皆様をはじめ、多くの方々にご心配とご不快な思いをおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

特定非営利活動日本デフバスケットボール協会（以下、「当協会」という。）は、2025年11月に開催予定の「東京デフリンピック」を控える中、男子代表候補選手から寄せられた、かつて代表監督を務めた監督候補によるパワーハラスメントに関する訴えに対し、十分かつ迅速な対応ができなかったことを、重く受け止めております。

当協会は昨年10月新たに発足した新理事体制の下、まずは分裂状態だった協会の立て直しのための組織体制の確立やガバナンス体制の見直し等々多数の構造的課題に取り組む必要がございました。また、急務である1年後に迫る東京デフリンピック日本代表選出のための合宿の実施とその関連作業などに多くの時間と労力を割く必要がありました。

中でも、理事の多くが日常の職務と並行しながらの協会運営であるため、これらの課題解決には多くの時間を要してしまいました。当該パワハラ疑惑問題に対しては、当協会として、既に今年3月の臨時理事会時には会員の皆様に対し、今後中立理事による調査委員会を設置して取り組むことを公表する方向で決めており、以降漸次準備を進めてまいりました。

取り組みが遅れた背景には、上記のような優先課題の多さ、人員の確保の困難性、また資金的な制約といった現実的な課題が多々あったことは否定できません。

しかしながら、こうした事情があったとはいえ、あらゆる制約の中で、適切なスピードで対応できなかったことは当協会の責任であると認識し、深く反省しております。

現在、当該事案につきましては、調査委員会の下で中立的な立場からの事実解明のための作業を進めております。調査が終了次第、適切な方法で皆様にご報告申し上げますこととしております。

また、監督選考に際して寄せられた多くのご意見や嘆願書、さらに合宿における選手の行動についても、当協会は真摯に受け止めております。今後は、理事会を中心に、パワハラ疑惑の事実解明を進め、このような事態が二度と起こらぬよう対策を講じて参りたいと存じます。

改めまして、選手及び関係者の皆様、スポンサーの皆様、そして日頃より応援してくださっているファンの皆様に、心よりお詫び申し上げます。

特定非営利活動法人
日本デフバスケットボール協会
理事長 佐知 樹一郎